

## 式 辞

令和6年度 第1学期終業式

10日前のグループマッチのときに、「カー杯やってみる経験をしてほしい」と話したことを覚えていますか。私がなぜそう願ったかについて話をします。

「やってみないと分からない」という言葉があります。逆に言うと、「やってみれば分かる」ということです。やってみないと、何が分からないのだと思いますか。やってみたら、何が分かるのだと思いますか。それは「自分の限界」なのだと思えます。

今日で1学期が終わります。38日間の明日からの夏休みに、今の自分にできることの限界がどのあたりにあるのか試す行動を、一つでも二つでも経験してください。こういう経験は、年齢が上がれば上がるほど難しくなることが多いです。18歳の夏、17歳の夏、16歳の夏にしかできないカー杯やってみる経験をしてほしいと思えます。

君たちには、君たちが思っているよりも、確かな力、強い力、大きな力があると、私はいつも本気で思っています。君たちの力を低く見積もる人がいるかもしれませんが、そんなことは気にしなくてよろしい。もちろん今のままでも悪くはないけれど、できれば思い切っていろいろな経験に飛び込んで、少しずつ少しずつ自信を付けていってほしいと願っています。

自分の内にある勇気を呼び起こして自分を信じてカー杯やってみる経験をすることで、自分の限界がどのあたりにあるのかを感じると思えます。自分の限界がどのあたりにあるのかが分かったら、その限界は、乗り越えるべき限界なのか、受け入れるべき限界なのかを、あなた自身が判断するのです。

乗り越えるべき限界だと思えば、向上する努力をなささい。受け入れるべき限界だと思えば、今持っている力、今ある自分でやっていく覚悟を決めなささい。

君たち一人一人がカー杯やってみる経験をし、自分の限界を感じ、自分の力を知る、意味ある夏休みとなることを願い、式辞とします。

令和6年7月19日

愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊